

## 6 優秀研究業績全国水産試験場長会会長賞表彰式

### (1) 審査委員長経過報告・講評

全国水産試験場長会 副会長

(北海道立総合研究機構 水産研究本部長) 星野 昇

審査委員長の星野より、令和7年度の審査委員会の経過及び結果についてご報告いたします。10月9日に東京都島しょ農林水産総合センターにおいて審査委員会を開催し、3つのブロックより推薦のあった各表彰候補について、リモートにより各研究担当者から推薦業績の説明と質疑応答を行い、審査を実施しました。

審査は、全国のブロック幹事から選出された5名の審査委員と審査委員長により、規定に基づき「地域の水産業の振興に貢献するか」「試験研究の成果が今後の水産試験研究の発展に寄与すると認められるかどうか」、主にこの2点を評価の視点として審査しました。その結果、いずれも全国水産試験場長会会長表彰を受けるにふさわしい業績であると判断されました。

1つ目は、海面部会 九州・山口ブロックから推薦されました、宮崎県水産試験場の上林大介さんによる「環境DNAを用いたかつお一本釣漁場探索手法の開発と実践」です。

これまで知見の非常に少ない外洋域での環境DNA分析により、ビンナガの漁場探索技術を開発されました。研究を進める中で、海域での流れを模した河川による検出距離調査や、浮き魚礁周辺での海洋環境要因の影響調査を実施し、その有効性を確認するなど、様々な工夫を重ねて実用性を高められており、研究成果が他の漁業・魚種へ展開され、外洋で操業する漁船漁業の支援方法として広がっていくことが期待される優秀な業績と認められました。

2つ目は、海面部会 東北ブロックから推薦されました、宮城県水産技術総合センター 気仙沼水産試験場の田邊徹さんによる「マボヤの貝毒対策に関する研究」です。

出荷時期が貝毒の発生時期と重なることが多いマボヤについて、肝臓を除去する処理加工により貝毒の減毒・無毒化ができる可能性を示されました。毒性の器官偏在や季節性、二枚貝類との比較など丁寧な分析を進め、成果は複数の論文として公表されており、学術知見の蓄積にも大いに貢献されました。マボヤ生産者や加工業者が抱える問題の解決により、今後の地域水産業の振興につながることを期待される優秀な業績と認められました。

3つ目は、内水面部会 東北・北海道ブロックから推薦されました、北海道立総合研究機構 網走水産試験場の渡辺智治さんによる「網走湖の塩分環境保全とヤマトシジミ資源の回復」です。

網走湖のヤマトシジミの資源減少要因が、河川に設置された可動堰による湖内への海水流入量減少に伴う淡水化であることを突き止め、長期にわたる野外モニタリングデータと実験により塩分による成長・生残への影響を明らかにされました。関係機関と連携

して可動堰の再稼働を実現させ、湖内の塩分環境の改善を図りヤマトシジミの資源回復を実現させたことにより、今後、環境保全に配慮した地域水産業の振興につながることを期待される優秀な業績と認められました。

いずれも素晴らしい研究業績であり、地域のため奮闘し大きな貢献をされた受賞者の皆様方に改めて敬意を表します。本日は誠におめでとうございます。

## 令和7年度全国水産試験場長会会長賞 表彰審査委員会 審査結果報告書

(令和7年10月10日付)

全国水産試験場長会  
会長 大村 英二 様

全国水産試験場長会  
優秀研究業績表彰審査委員会  
審査委員長 星野 昇

令和7年度全国水産試験場長会会長賞表彰候補に推薦された3業績について、下記のとおり審査委員会を開催したので審査結果を報告します。

## 記

開催日時・場所：令和7年10月9日（火）14:00～16:00 東京都島しょ農林水産総合センター

開催方法：リモート併用による各研究担当者からの推薦業績の説明と審査

出席者：

## 審査委員

委員長 星野 昇（北海道ブロック：北海道立総合研究機構水産研究本部 本部長）  
委員 樋口 正仁（北部日本海ブロック：新潟県水産海洋研究所 所長）  
後藤 功一（東海・北陸ブロック：岐阜県水産研究所 所長）  
三木 勝洋（瀬戸内海ブロック：香川県水産試験場 場長）  
石原 幸雄（西部日本海ブロック：鳥取県水産試験場 場長）  
藍 憲一郎（関東・甲信越ブロック：千葉県水産総合研究センター内水面水産研究所 所長）

## 推薦ブロック幹事

海面 山下 武志（九州・山口ブロック：熊本県水産研究センター 所長）  
海面 高橋 正和（東北ブロック：茨城県水産試験場 場長）  
内水面 中林 信康（東北・北海道ブロック：秋田県水産振興センター 所長）

## オブザーバー

会長 大村 英二（宮崎県水産試験場 場長）  
事務局 神柱 武志（同 経営流通部長）  
特別幹事 中野 卓（東京都島しょ農林水産総合センター 所長）  
前田 洋志（同 振興企画室長）  
次期会長県 太田 克彦（岩手県水産技術センター 所長）  
藤村 崇（同 企画指導部長）  
幹事県等 篠崎 貴史（熊本県水産研究センター 主幹兼企画情報室長）  
斎藤 和敬（秋田県水産振興センター 総務企画室長）  
保坂 芽衣（同 主査）  
織田 純生（高知県内水面漁業センター 所長）  
伊與田 慎右（WEB参加）（高知県内水面漁業センター 所長）

## 推薦業績説明者

上林 大介（宮崎県水産試験場 主任研究員）  
田邊 徹（宮城県水産技術総合センター気仙沼水産試験場 主任研究員）  
渡辺 智治（北海道立総合研究機構 網走水産試験場 主査）

審査結果：

海面部会2ブロックと内水面部会1ブロックから推薦のあった以下の3業績について、推薦理由を各推薦ブロック幹事から、推薦業績を各研究担当者からそれぞれ説明を受けて審査した結果、いずれも令和7年度全国水産試験場長会会長賞表彰を受けるにふさわしい業績と判断されました。

(1) 海面部会 九州・山口ブロック

「環境DNAを用いたかつお一本釣漁場探索手法の開発と実践」

宮崎県水産試験場 経営流通部

主任研究員・上林 大介

選考理由

これまで知見の非常に少ない外洋域での環境DNA分析により、ピンナガの漁場探索技術を開発した。海域での流れを模した河川による検出距離調査や、浮き魚礁周辺での海洋環境要因の影響調査を実施して、その有効性を確認するなど様々な工夫を重ね実用性を高めていったことは、今後、成果が他の漁業・魚種へ展開され、外洋で操業する漁船漁業の支援方法として広がっていくことが期待される。

(2) 海面部会 東北ブロック

「マボヤの貝毒対策に関する研究」

宮城県水産技術総合センター 気仙沼水産試験場

主任研究員 田邊 徹

選考理由

出荷時期が貝毒の発生時期と重なることが多いマボヤについて、肝臓を除去する処理加工により貝毒の減毒・無毒化ができる可能性を示した。毒性の器官偏在や季節性、二枚貝類との比較など丁寧な分析を進め、成果は複数の論文として公表されており学術知見の蓄積にも大いに貢献された。マボヤ生産者や加工業者が抱える問題の解決により今後の地域水産業の振興につながることを期待される。

(3) 内水面部会 東北・北海道ブロック

「網走湖の塩分環境保全とヤマトシジミ資源の回復」

網走水産試験場 調査研究部

主査 渡辺智治

選考理由

網走湖のヤマトシジミの資源減少要因が、河川に設置された可動堰による湖内への海水流入量減少に伴う淡水化であることをつきとめ、長期にわたる野外モニタリングデータと実験により塩分による成長・生残への影響を明らかにした。関係機関と連携して可動堰の再稼働を実現させ、湖内の塩分環境の改善を図りヤマトシジミの資源回復を実現させたことにより、今後、環境保全に配慮した地域水産業の振興につながることを期待される。

## (2) 副賞贈呈・挨拶

### 地域水産試験研究等促進奨励会

(一般社団法人 全国水産技術協会) 和田 時夫

皆さん、こんにちは。全国水産技術協会の和田でございます。地域水産試験研究等促進奨励会を代表して、一言ご挨拶申し上げます。

まず、本日、栄えある全国水産試験場長会会長賞を受賞されます三つの課題の関係者の皆様、誠におめでとうでございます。お手元の資料に、この奨励会の趣旨と現在の構成団体 13 が記載されておりますが、リストアップもしております。これらの団体はどれも、実際に仕事をさせていただく際に、地域の試験研究機関の成果、それから試験研究機関の皆様との連携によって仕事を進めております。そういったことから、少しでも研究のお手伝いができないかということで、令和 2 年度からこの奨励会を構成し、毎年度場長会の会長賞に副賞として贈呈をさせていただいております。

申し上げるまでもなく、水産業というのは地域の資源、自然環境、また社会経済に密着した産業でございます。地域ごとでの試験研究というのが、何ものにも増して欠かせないと考えております。奨励会としても、これからも本当に心ばかりではございますが、側面からの支援を続けてまいりたいと思っております。ぜひ、全国水産試験場長会の関係の皆様におかれましても、構成団体とこれからもご厚誼を賜り、また仕事にあたりましては、ぜひ連携のご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

本日は本当におめでとうでございます。

## 全国水産試験場長会の皆様へ

地域水産業等を対象に事業を展開している全国的な水産関係団体は、水産試験場等の試験研究成果等を基礎とし、これら機関と連携して業務を進めてきました。こうしたなか、気候変動や国際情勢の変化を背景に国際的な水産物の需給関係が厳しさを増す一方、国内においては、水産業におけるスマート化や DX 化の推進や、ブルーカーボン等も活用したカーボンニュートラルの実現、さらには水産以外の分野とも連携した海業の展開が期待されており、両者の緊密な連携協力が一層重要となっております。

このため、令和 2 年度に全国的な水産関係団体により「地域水産試験研究等促進奨励会」を結成し、それまで一般社団法人全国水産技術協会が行ってきた「優秀研究業績表彰」に対する事業を継承発展させ実施してまいりました。

今年度も下表に示す水産関係団体により、優秀研究業績表彰に対する副賞贈呈の事業を実施することといたしました(参考:優秀研究業績表彰副賞=図書券 10 万円/件×3 件)。

場長会の皆様方には、このような趣旨及び経緯をご理解賜り、引き続き一層の連携協力を頂きますようお願い申し上げます。

令和 7 年 11 月 18 日

地域水産試験研究等促進奨励会

## 地域水産試験研究等促進奨励会の構成団体(五十音順)

団体名	ホームページ URL
公益財団法人 海と渚環境美化・油濁対策機構	<a href="https://www.umitonagisa.or.jp/">https://www.umitonagisa.or.jp/</a>
公益財団法人 海外漁業協力財団	<a href="https://www.ofcf.or.jp/">https://www.ofcf.or.jp/</a>
一般社団法人 水産土木建設技術センター	<a href="https://www.fidec.or.jp/">https://www.fidec.or.jp/</a>
一般社団法人 漁業情報サービスセンター	<a href="https://www.jafic.or.jp">https://www.jafic.or.jp</a>
全国漁業協同組合連合会	<a href="https://www.zengyoren.or.jp/">https://www.zengyoren.or.jp/</a>
一般社団法人 全国水産技術協会	<a href="https://www.jfsta.or.jp">https://www.jfsta.or.jp</a>
一般財団法人 漁港漁場漁村総合研究所	<a href="https://www.jifc.or.jp/">https://www.jifc.or.jp/</a>
全国内水面漁業協同組合連合会	<a href="https://www.naisuimen.or.jp">https://www.naisuimen.or.jp</a>
公益社団法人 全国豊かな海づくり推進協会	<a href="https://www.yutakanaumi.jp/">https://www.yutakanaumi.jp/</a>
一般社団法人 大日本水産会	<a href="https://www.suisankai.or.jp">https://www.suisankai.or.jp</a>
一般財団法人 東京水産振興会	<a href="https://www.suisan-shinkou.or.jp/">https://www.suisan-shinkou.or.jp/</a>
公益社団法人 日本水産資源保護協会	<a href="https://www.fish-jfrca.jp/">https://www.fish-jfrca.jp/</a>
一般社団法人 マリノフォーラム21	<a href="https://www.mf21.or.jp">https://www.mf21.or.jp</a>
事務局	(一社)全国水産技術協会